

銚子ジオパーク

ジオパークは、「大地の公園」を意味しますが、現地で、大地の成り立ちを感じるだけでなく、大地からの恵み、大地と人との関わりについて楽しむことができます。また、地球の歴史において、地質学的重要が保全され、さらに、科学・教育・文化のために奨励し、持続可能な経済資源として観光などにも利用されます。ジオパークは、地元の関連する全ての利害関係者、行政機関等を含むボトムアップの方法によって確立されます。つまり、地域にすばらしい地質遺産があるだけでなく、地域に住んでいる人たちが、自分たちが、大地と関わりながら生活していることを認識し、活用していることがジオパークとして認定される条件なのです。

銚子ジオパークは、2012年9月に、日本ジオパークとして認定されました。その理由として、銚子には、地質遺産、動植物、水産業、農業、醤油産業、歴史・文化などの地域資源が豊富で、それらを活用している地域住民がいるからなのです。

銚子ジオパークの代表的なみどころは、水郷筑波国定公園に指定されている地域で、かつ江戸時代に人気のあった銚子濱磯巡りのコースと重複しています。このコースは、利根川河口から海岸沿いに進んで、屏風ヶ浦まで行きます。江戸時代の作家、十返舎一九は「南総紀行旅眼石」の中で、「波打ち際の景色、奇岩、怪石、いふばかりなく、風土の秀異、總中第一の壯観とすべし」と表現し、赤松宗旦は、「利根川図志」の中で、「風景言葉につくし難し」と表現しました。

犬吠埼の大地は、「犬吠埼の白亜紀浅海堆積物」として国の天然記念物に指定されています。ここでは、約1.2億年前の水深が浅かったころの海の環境に特徴的な地質構造や生痕化石が見られます。かつて、江戸時代から昭和初期頃にかけて、銚子石と呼ばれる砂岩が切り出されて、砥石として東京方面に運搬されて利用されていました。また、犬吠埼沖は、初夏には霧が発生しやすく、冬季には、風波の強い日が多いため、海上交通の難所でした。そのため、1874年に灯台が建設されて点灯しました。犬吠埼灯台は、世界灯台百選の一つです。

犬岩は、犬の形をした巨大な岩体で、国の名勝及び天然記念物(屏風ヶ浦)の一部です。また、千葉県内で最古のジュラ紀の地質であります。犬岩の隣には、犬若岬という眺めの良い高台があります。江戸時代に全国を測量した伊能忠敬隊は、ここから富士山の方位を測量して、それまでの測量の精度を確認することが必要でした。しかし、銚子に来たのが晩夏であったため、海上の靄で、なかなか富士山を見ることができません。ついに9日目に富士山を測量できたので、とても喜んだと記録に残されています。

屏風ヶ浦は、長さ約10km、高さ約20m～60mの海食崖で、国の名勝及び天然記

念物に指定されています。ぜひ、この壮観な景色を眺めてみてください。ここでは、地層がほぼ水平に広がって、下から上に堆積していることもよくわかります。屏風ヶ浦は、かつて、陸が現在よりも沖の方まで延びていました。ところが、大地が比較的柔らかいため、荒天時の波浪による浸食で、年間約1m陸地が後退してきました。現在は、消波ブロックの設置により、浸食が抑えられています。今後も、この大地の保護のあり方を考える必要があるでしょう。

地球の丸く見える丘展望館のある愛宕山は、銚子市で最も高い場所に位置し、標高73.6mです。視界を遮るものがないため、ここから銚子を一望することができます。周囲330度が海に囲まれ、水平線が広がって見えます。また、ここでは地球の丸さを実感することができます。この大地は、犬岩・千騎ヶ岩と同じ千葉県内で最古のジュラ紀の地質です。大きな地震で津波の原因となる大陸プレートと海洋プレートの境界付近で堆積した地層で、海洋プレートが沈み込むときに大陸プレートに付加された付加体です。この付加体という構造は、日本列島の骨格になっています。

千人塚は、利根川右岸の河口部に位置しています。慶長19年(1614)に、銚子沖で多数の人命が被害に遭ったとされる海難事故が発生したことに関連した石碑が立てられています。この辺りの海は、日本三大海難所の一つでした。特に、河口が北東方向に向いている利根川と、冬季の北東からの強風とがぶつかってできる三角波が危険でした。また、利根川河口の右岸側は岩礁(古銅輝石安山岩)、左岸側は砂による浅瀬であることも漁船の航行を困難にしていました。そこで、漁船が安全に航行できるように、1960年代に岩礁を除去し、現在の岩石公園に設置しました。

銚子は、約2億年前に形成された大地が局所的に隆起したことから起因して、現在のような景観が成り立っています。この銚子は、関東最東端で、東北日本と西南日本の境界付近という本州の曲がり角に位置しているだけでなく、2つの海流(黒潮と親潮)が出合う場所でもあります。海に面しているため、内陸部に比較して、夏涼しく冬温暖です。また、江戸時代以前は香取海という内海(現在は、利根川)の入口でした。このような結果、銚子は、昔から自然資源に非常に恵まれて、暮らしが営まれてきました。銚子が、美しい景観を持ちながら、豊かな生態系を保持し、水産業、農業、醤油産業が発展してきたのは、銚子の大地の成り立ちが、土台となって、影響を及ぼしてきたためです。そして、私たちの暮らしは、全てこの地球上にあるものだけを利用して、生かされていることにも気づいていただきたいです。